

も く じ

| | | |
|---------------------------------|----------------------------|----|
| ごあいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 中国地区会会長 正保 正恵 | 1 |
| 第40回日本家庭科教育学会中国地区会総会（紙面会議）報告・・ | 庶務 梶山 曜子 | 2 |
| 研究室だより・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 岡山大学 李 璟媛 | 6 |
| 学校現場から・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 島根大学教育学部附属 義務教育学校 竹吉 昭人 | 7 |
| 日本家庭科教育学会本部だより・・・・・・・・・・・・・・・・ | 中国地区会代表者 正保 正恵 | 9 |
| 2021年度「研究発表会および講演会のご案内」・・・・・・・・ | 山口大学 森永 八江 | 12 |
| 事務局だより・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 庶務 梶山 曜子 | 14 |

ごあいさつ

中国地区会会長 正保 正恵（福山市立大学）

1年で私たちの生活が大きく様変わりし、今年もまたコロナ禍での生活を余儀なくされています。その中にあっても、梅の花が白やピンクに咲き誇り、ひと時でも気持ちが和らぐのを感じるこの頃です。日本家庭科教育学会中国地区会の皆様、当会の運営には、日ごろより様々な方面からご協力いただき、ありがとうございます。

昨年のお便りのご挨拶では、2020年度の予定として、当地区会からのテキストの出版と、夏の北海道での全国大会、さらに山口での地区大会について書かせていただいていたところ、実際に叶ったのはテキスト『家庭科地域と連携・協働する家庭科授業－21世紀型スキルに向き合う－』の出版が予定より遅れてやっと秋に出版させていただけたのみとなりました。運よくそれぞれの実践はコロナ禍に入る前であったことが幸いでしたが、その後はご自身もかかわっておられる職場の環境も大変な状況となられたと思います。玉稿を賜った先生方には、改めてお礼申し上げます。

小学校では新学習指導要領の全面実施が始まり、中学校でも4月より、高等学校も1年後となりました。家庭や地域と連携・協働していくことがどの校種にも謳われており、我々の新しいテキストもぜひ活用していただきたいところです。コロナ禍においても、あるいはコロナ禍だからこそ連携・協働をして、不便な生活の中で辛い思いをしている児童・生徒の心に響く授業が作っていけたらという思いでいっぱいです。

文部科学省が2020年5月に新型コロナウイルスに関する学校の衛生管理マニュアルを作成しています。地域の感染状況によってレベルを3段階に分け、子ども同士が保つべき身体的距離や授業、部活動の実施方法などを示しており、「新しい生活様式」の学校版ともいえるこのマニュアルでは、レベル3になると合唱も調理実習も行わないとされていました。その後、文部科学省通知「学校の授業における学習活動の重点化に係る留意事項について」において、改めて調理実習は「学校の授業で取り扱うことが望ましい」という指針がだされています。各学校においても積極的に工夫を重ねておられると思いますが、調理実習のみではなく家庭科の授業の際に注意すべき点について、HPに「コロナ禍での家庭科学習支援サイト」として校種別に載せるなどして学会を挙げて応援しています。是非ご活用ください。

最後に、この会報に載せていますが、当中国地区会総会並びに研究発表会・講演会は、8月28日（土）に山口大学教育学部にて行う予定としていますが、場合によってオンライン開催とさせていただく可能性もあります。オンライン開催を視野に入れていますので、昨年のような中止となることはないと思存じます。なるだけ早く皆様に詳細をお伝えできるよう、検討していきます。こんな時だからこそ家庭科の力で児童・生徒たちのみでなく、地域の皆様のためになるような研究を進め、奮って研究発表をしていただけますよう、何とぞよろしく願いいたします。

もう一つ、この大会時に次の共同研究についての方向性をご一緒に考えてみたいと思います。次の共同研究にも是非ご参加いただけますよう、お願い申し上げます。

日本家庭科教育学会中国地区会 第40回 総会（紙面会議）

令和2年度の日本家庭科教育学会中国地区会の研究発表と講演会はコロナ禍のため中止、総会は紙面会議となりました。

[報告事項]

1. 平成31年・令和元年度 庶務報告

① 地区会現況報告（令和2年6月8日 現在）

鳥取県5名 広島県43名 岡山県10名 島根県30名 山口県12名
計 100名 （参考：令和元年8月100名）

② 平成31年・令和元年度 事業報告（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

令和元年 5月 共同研究申し込み締切
令和元年 6月 日本家庭科教育学会中国地区会第39回研究発表会ならびに総会案内送付（島根大学）
令和元年 8月 役員会開催
令和元年 8月 日本家庭科教育学会中国地区会第39回研究発表会ならびに総会（島根大学）
令和2年 1月 共同研究原稿提出締切
令和2年 3月 会報40号発行

2. 平成31年・令和元年度 会計報告

***一般会計（自：平成31年4月1日～至：令和2年3月31日）**

【収入の部】

（単位：円）

| 費目 | 予算額 | 決算額 | 摘要 |
|-----------|---------|---------|------------|
| 前年度繰越金 | 254,362 | 222,503 | |
| 地区会費 | 100,000 | 89,000 | 1,000×89人分 |
| 本部からの交付金 | 52,830 | 52,830 | |
| 教大協からの補助金 | 35,000 | 25,000 | |
| 雑収入 | 1 | 1 | 預金利息 |
| 合計 | 442,193 | 389,334 | |

【支出の部】

（単位：円）

| 費目 | 予算額 | 決算額 | 摘要 |
|-------------|---------|---------|-------|
| 総会費 | 100,000 | 100,000 | |
| 通信費 | 20,000 | 17,800 | 会報40号 |
| 事務用品費 | 5,000 | 7,889 | |
| 会議費 | 10,000 | 6,120 | |
| 印刷費 | 30,000 | 0 | |
| 雑費 | 1,000 | 0 | |
| 共同研究費(特別会計) | 50,000 | 0 | |
| 予備費 | 226,193 | 0 | |
| 次年度繰越金 | 0 | 257,525 | |
| 合計 | 442,193 | 389,334 | |

<次年度繰越金> 257,525円

*特別会計（自：平成31年4月1日～至：令和2年3月31日）

【収入の部】

(単位：円)

| 費目 | 予算額 | 決算額 | 備考 |
|----------|---------|---------|----|
| 前年度繰越金 | 656,063 | 706,066 | |
| 一般会計から繰入 | 50,000 | 0 | |
| 利子 | 3 | 6 | |
| 合計 | 706,066 | 706,072 | |

【支出の部】

(単位：円)

| 費目 | 予算額 | 決算額 | 備考 |
|---------------|---------|---------|----|
| 共同研究出版費（買い上げ） | 420,000 | 0 | |
| 通信費 | 10,000 | 0 | |
| 雑費 | 1,000 | 0 | |
| 予備費 | 275,066 | 0 | |
| 次年度繰越金 | 0 | 706,072 | |
| 合計 | 706,066 | 706,072 | |

<次年度繰越金> 706,072 円

上記の通り、報告いたします。

令和2年4月24日 会計：中村 誉子

3. 平成31年・令和元年度 会計監査報告

平成31年・令和元年度の会計について、領収書、帳簿を照合して監査した結果、適正に処理されておりましたので、報告いたします。

令和2年5月01日 会計監査：鎌野 育代

令和2年5月19日 会計監査：森永 八江

[協議事項]

1. 令和2年度事業計画（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

令和2年6月 日本家庭科教育学会中国地区会第40回研究発表会延期案内並びに総会紙面会議の案内送付

令和2年6月 役員会開催（紙面会議）

令和2年8月 日本家庭科教育学会中国地区会第40回研究発表会（延期）並びに総会（紙面会議）

令和2年9月頃 共同研究出版物郵送

令和3年3月 会報41号発行

2. 令和2年度会計 予算

*一般会計（自：令和2年4月1日～至：令和3年3月31日）

【収入の部】

（単位：円）

| 費目 | 決算額 | 予算額 | 摘要 |
|-----------|---------|---------|--------------|
| 前年度繰越金 | 222,503 | 257,525 | |
| 地区会費 | 89,000 | 100,000 | 1,000円×100人分 |
| 本部からの交付金 | 52,830 | 52,830 | |
| 教大協からの補助金 | 25,000 | 25,000 | |
| 雑収入 | 1 | 1 | |
| 合計 | 389,334 | 435,356 | |

【支出の部】

（単位：円）

| 費目 | 決算額 | 予算額 | 摘要 |
|-------------|---------|---------|--------------------|
| 総会費 | 100,000 | 0 | コロナ禍の影響で紙面会議となったため |
| 通信費 | 17,800 | 20,000 | 会報41号送料他 |
| 事務用品費 | 7,889 | 8,000 | |
| 会議費 | 6,120 | 0 | 紙面会議のため |
| 印刷費 | 0 | 30,000 | 会報41号 |
| 雑費 | 0 | 1,000 | |
| 共同研究費（特別会計） | 0 | 100,000 | 平成31年・令和元年，令和2年度分 |
| 予備費 | 0 | 276,356 | |
| 次年度繰越金 | 257,525 | 0 | |
| 合計 | 389,334 | 435,356 | |

*特別会計（自：令和2年4月1日～至：令和3年3月31日）

【収入の部】

(単位：円)

| 費目 | 決算額 | 予算額 | 備考 |
|----------|---------|---------|--------------------|
| 前年度繰越金 | 706,066 | 706,072 | |
| 一般会計から繰入 | 0 | 100,000 | 平成31年・令和元年, 令和2年度分 |
| 利子 | 6 | 6 | |
| 合計 | 706,072 | 806,078 | |

【支出の部】

(単位：円)

| 費目 | 決算額 | 予算額 | 備考 |
|---------------|---------|---------|-------------|
| 共同研究出版費（買い上げ） | 0 | 420,000 | ¥2,100×200冊 |
| 通信費 | 0 | 50,000 | ¥500×100冊 |
| 雑費 | 0 | 1,000 | 振込手数料 |
| 予備費 | 0 | 335,078 | |
| 次年度繰越金 | 706,072 | 0 | |
| 合計 | 706,072 | 806,078 | |

岡山大学教育学部は、学校教育教員養成課程と養護教諭養成課程で構成されており、学校教員養成課程には、小学校教育コース、中学校教育コース、特別支援教育コース、幼児教育コースの4つのコースがあります。私が所属している家政教育講座には、小学校教育コースの学生と中学校教育コースの学生が配属されています。

私は、家政教育講座において、家族・家庭生活領域の関連科目である中等家庭科内容論（家族関係論・家庭経営論・現代の家族など）、初等家庭科内容論（家族・家庭生活領域）などを主に担当しています。

岡山大学教育学部に所属する学生は、3年次から各講座のそれぞれの研究室に所属し、各自興味・関心のあるテーマに基づいて卒業研究を行います。

近年における家族研究室の卒業研究のテーマを少し紹介しますと、「多様化する結婚に関する高校生の意識—高等学校家庭科における授業開発のための考察」、「高校生、大学生の結婚観に関する研究—高等学校の家庭科における生活設計の学習との関連」、「高等学校の教科家庭における高齢者学習について—高齢者のポジティブな生き方に焦点を当てた授業開発」、「高校生の老後の生活設計に対する意識—経済の視点を取り入れた生活設計の授業開発」、「男女共同参画教育について—小・中・高等学校家庭科における教育内容の体系化」、「男女共同参画に関する高校生の意識—男女共同参画社会推進における家庭科教育の役割」、「中学校家庭科教員における家族領域の授業実践と課題—今後の家庭科教育のよりよい発展を目指して」など、多様なテーマで取り組んでいます。題目からもわかりますように卒業研究で明らかになった結果を授業開発につなげる取り組みを積極的に試みています。また、近年には、卒業研究として、「児童虐待防止教育に対する中学校教員の意識と実態—中学校家庭科における児童虐待防止教育」、「小学校教員の児童虐待に関する意識」、「教員養成課程の大学生における児童虐待に関する意識」などのように、「児童虐待」を研究テーマにする学生も増えてきています。小中高等学校の教職員における児童虐待の防止と早期発見、適切な対応などに関心を示し、取り組んでいます。

現代社会は、社会の変化とともに家族をめぐる変化も大きく、その変化を配慮した、または変化に伴う必要不可欠な法改正も多く行われています。ここで学ぶ学生たちが、家族や家族をめぐるさまざまな変化に対して客観的に理解、認識する力、また、状況において配慮できる力をつけることができればと常に願っています。

研究方法は、現場の教職員を対象とした質的、量的調査や学生を対象とした量的調査、文献研究など、さまざまです。研究の結果は、先ほど申しましたように授業開発に用いられることも多いですが、学会等の研究発表や論文誌への発表などを通してフィードバックしています。

卒業研究論文の指導において令和2年度は、3年生3名、4年生2名を指導しました。コロナ禍の最中、さまざまな制限のなか思うように研究が進まず、苦しみましたが、対面やオンラインを併用しながらほぼ毎週ゼミを実施し、何とか研究を進めることができました。例年とは異なる状況のなかで、学生たちが経験した一連の過程、つまり、危機にぶつかり、解決方法を考え、課題解決に向かって実践し、解決するという過程は、今後教員をはじめ社会人になった際大きな糧になることと思われます。

今後も予期せぬ状況に出くわすこともあると思います。私も、さまざまな危機的状況を乗り越え、問題解決能力を高める教員養成を目指し、日々授業づくりと研究を続けたいと考えています。

最後になりますが、家政教育講座の近年の活動についてご報告します。

平成29年3月発行の「会報」第37号の「研究室だより」に岡山大学大学院教育学研究科の河田哲典教授により、「家政教育講座と岡山県並びに岡山市教育委員会との連携協力事業について」紹介されました。平成12年度から始まっている本事業は、現在も、さまざまな校種で家庭科を担当している先生方、また、家庭科に関心をもつ先生方と交流会を続けています。今後も、岡山県の教育の充実・発展を図るため連携協力事業を進めていく予定です。

*** 〈学校現場から〉 ****

計画的な金銭管理に向けて課題解決を目指す授業提案

島根大学教育学部附属義務教育学校 竹吉 昭人

1. はじめに

昨年度より、本校は小学校・中学校が一つになり義務教育学校となりました。これまでも附属学校園として、小・中連携して様々な活動を行ってきましたが、より一体となって取り組んでいるところです。また、3年前より島根大学教育学部消費者教育研究会を立ち上げ、今後の社会の変化に主体的に対応することができるように、より一層の充実を図る必要のある内容の一つである消費生活に焦点を当て、授業研究や授業公開を行ってきました。今年度は新潟大学の高木幸子先生、新潟大附属新潟小の小川先生、新潟附属長岡小の関先生にご講演いただき授業提案をオンライン研修会の形で実施しました。今年度は、中学校技術・家庭（家庭分野）で新たに加わった「計画的な金銭管理」の内容を軸に課題解決を目指す学習過程を構想し、小学校での「物や金銭の計画的な使い方」の内容との系統性を明らかにしながら実践を考え提案しました。

2. 授業の構想と授業の実際

本題材では、消費生活に関する、物の選び方から、消費者被害、社会・環境問題など多岐に渡る諸課題を、子どもたちにとって一番身近な消費行動である“買いもの”を通して、その計画や金銭管理を考えることを軸に展開しました。小・中学校共に、自分の消費生活にとって大切にしていきたい視点を“My 買い物チャート”にまとめ、チャートの作成を通して、子どもたちの金銭管理についての思考の広がりや深まりが自覚できるように



しました。小学校では、自分に任された金銭の範囲内での“買い物”を中心に、中学校では、自分から家庭へ目を向け、家庭での収支のバランスも考慮した“物やサービスの購入”を中心に扱い、消費生活の視点を小学校から中学校へ発達段階を考慮しながら広げていきたいと考えました。

小学生については、調理実習で行った「ごはんのみそ汁」のふり返りを活かして、「家で作るみそ汁の食材の買い物計画を考えよう」ということをテーマに授業を展開し、“欲しい”という願いと“買う”という実際の消費行動を上手くつなぐための課題やその解決策を買い物チャートの作成を通して考え、子どもたち自身がこれからの買い物に生かせるようにしました。中学生については、普段の生活で購入しているものを振り返ることを通して、収入や支出のバランスを考えました。生活に必要な物資やサービスの金銭的な流れや、多様な支払い方法に応じた計画的な金銭管理を窓口とし、消費生活全般に目を向け多面的な課題を見出し、売買契約の仕組みや消費者被害の理解や対応、環境や社会に及ぼす影響などその課題や解決策など考えました。そして、これからの責任ある消費行動を考え、チャートにまとめながらこれからの消費行動の工夫について考えました。

3. 成果と課題

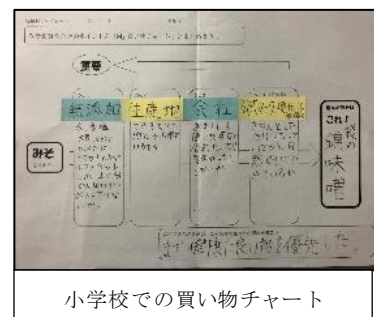
(1) 「My 買い物チャート」の活用について

題材を展開するにあたって、思考の深まりや広がりや表現を複数回の買い物チャートの作成によって行いました。自分自身や友だちの思考の変容を捉えたり、実際の生活や買い物場面をイメージしたりし、これからの消費行動につながる手立てとなったと考えます。

(2) 小学校と中学校の系統性について

学習内容も含め、小学校では買い物に必要な視点、中学校ではこれからの消費行動に必要な視点の獲得と深めていくことが大切ではないかと考えます。更にこれらについて、小学校では自分が大切にしたい視点を選び、理由付けをすること、中学校では視点ごとのメリット・デメリットを挙げたり、場面や状況に応じた使い分け方を考えたりすることが重要だと思いました。

(3) 課題設定と子どもの思考の流れについて



家庭科での学習経験や、自分の消費生活を見つめ直しながら、主体的に課題解決できるように工夫しましたが、課題設定や課題の持たせ方など、まだまだ検討の余地があります。また、消費生活の内容は多岐に渡り、題材を通して思考の流れや意欲が途切れない展開の工夫を今後も検討していきたいと思えます。

最後に、本研修会に際しまして中国地区会よりメールにて会員の皆様にご案内いただきましたこと感謝申し上げます。ありがとうございました。

2020年度 日本家庭科教育学会本部だより

中国地区会会長 正保正恵

日本家庭科教育学会 2020年度 第1回地区会代表者会議議事録

日時：2020年7月4日（土）15:10～16:10

ZOOMによるオンライン会議

出席者：鎌田・土岐（北海道）、天木・石垣（東北）、仲田・萬羽（関東）、尾島（北陸）、吉岡（東海）、永田・山本（近畿）、正保・河田（中国）、福井（四国）、浅井・財津（九州）

赤塚、鈴木（真）、堀内、綿引、渡瀬、小高、瀬戸、鈴木（明）、井元、阿部、佐藤（裕）、浜島、中西、佐藤（ゆ）、岡部、岡、伊藤、中山、望月、貴志、矢野

欠席者：磯崎（北陸）、星野（東海）、小島（四国）、佐藤（園）、上野

議長：仲田（関東）

記録：萬羽（関東）

事前配布資料

- ① 2019年度第2回地区会代表者会議議事録（案）
- ② 総会資料
- ③ 理事会報告（事業）
- ④ 理事会報告（渉外・広報）
- ⑤ 理事会報告（研究推進）
- ⑥ 2020年度地区会交付金

◆ 会長挨拶 赤塚朋子会長から挨拶があった。

I 2019年度第2回地区代表者会議議事録の承認 承認された。

II 報告事項

1. 地区会報告

各地区から、①活動報告、②各地区における新型コロナウイルス感染症への対応、③新型コロナウイルス感染症への対応としての大学の授業等の状況、について報告があった。

(1) 北海道地区

- ① 2019年5月に地区会報No.41を発行した。2020年2月16日に北海道地区会総会および卒業論文・修士論文発表会を開催した。
- ② 新型コロナウイルス対策について地区会としては特に行っていないが、全国大会の対応等については相談した。
- ③ 北海道教育大学札幌校・旭川校では対面授業は前期には行なわないこととなっており、実験・実習については個別に対応している。釧路校では3密対策などを行った上で対面授業が認められている。

(2) 東北地区

- ① 2019年10月5日に東北地区会大会2019年度大会を開催した。「東北家庭科教育研究」第19号を2020年3月に発行した。
- ② 新型コロナウイルスの影響により今年度は支部会を開催できないこと、「東北家庭科教育研究」も今年度は発行しないこと、それに伴って今年度は支部会費を徴収しないことを考えており、この後提案する予定である。また、今年度の地区役員が来年度も継続して担当する予定である。
- ③ 岩手大学では、5月5日から授業を開始した。オンライン授業が中心であるが、受講者数が少ない実

験・実習など一部の授業は対面で実施している。山形大学では 5 月 7 日よりオンライン授業を開始し、実験等の授業は 5 月末から対面で実施している。

(3) 関東地区

- ① 2019 年 7 月に関東地区大会（総会・研究会）、2019 年 12 月に例会（講演会）を開催した。2020 年 3 月には会報 No.37 を発行し、研究活動の推進事業として 4 グループに研究助成を行った。
- ② 新型コロナウイルスの影響によって 4 月からは役員会をメールまたはオンライン会議で実施し、2020 年 7 月に実施予定であった関東地区大会は 4 月時点で中止を決定した。役員選挙は例年より 1 カ月遅れる形で実施し、新役員決定後に書面またはメールで総会を実施する予定である。
- ③ 東京学芸大学では、遠隔授業を中心とし、7 月以降一部対面授業が認められるようになったが、入構規制などは続いている。國學院大學栃木短期大学では、5 月中はオンライン授業であったが、7 月以降は対面授業で行う予定で徐々に移行している。

(4) 北陸地区

- ① 2020 年 3 月に第 36 号地区会会報を発刊した。
- ② 2020 年 8 月に予定していた総会・大会は新型コロナウイルスの影響により中止を決定した。
- ③ 金沢大学では、5・6 月はオンライン授業で進めている。

(5) 東海地区

- ① 2019 年 9 月に東海地区会（総会・研究会）を開催した。
- ② 他地区と同様に対面で集まることが難しいため、Zoom 等を用いた会議を行っている。

(6) 近畿地区

- ① 2019 年 8 月に実践・研究発表会、2019 年 12 月に学習会を開催した。また、会報 No.41 および 50 周年記念誌を発行した。
- ② 今年度は 8 月に Zoom を使った実践研究発表会・総会・座談会を開催予定である。
- ③ 兵庫教育大学では、前期は対面禁止でオンライン授業を行っている。8 月から申請をすれば一部対面授業が認められる予定である。調理実習については、講義は遠隔で実施し、実習は自宅で行うことなどを行っている。和歌山大学では、遠隔授業を中心に、一部の授業は申請により対面授業が認められるようになってきた。課外活動についても徐々に認められるようになってきた。後期についても基本は遠隔授業で行うことが方針として決まっている。

(7) 中国地区

- ① 2019 年 7 月に中国地区会総会・研究発表会を開催した。「家庭や地域と連携・協働する家庭科授業（仮題）」の出版に向けて動いており、2020 年 9 月に発行を予定している。
- ② 2020 年 8 月に予定していた第 40 大会は延期とし、来年度に実施予定である。総会は紙面をお送りし Forms で議決を取る方法について検討している。
- ③ 福山市立大学では、授業規模によってオンラインと対面の混合方式で授業を実施している。調理実習についても Teams を用いて自宅で行っている。岡山大学は、4 学期制で、1 学期は原則オンライン授業、2 学期（6 月～）は一部の授業は対面を許可制で認めている。調理実習もオンラインで実施している。被服実習は人数が少ないためディスタンスをとって対面で実施している。

(8) 四国地区

- ① 2019 年 8 月に第 39 回四国地区総会・研究発表会を開催した。また、1 件の研究費補助金を給付した。2020 年 2 月には家庭科教育実践研究誌第 15 号・会報第 34 号を発行した。
- ② 4 月からメール会議を開催し、2020 年 7 月に予定されていた研究発表会を紙面発表とすることとなった。例年より多くの研究発表があった。
- ③ 鳴門教育大学では、5 月中旬からオンライン授業を行っていたが、6 月 22 日から対面授業も可能となった。100 名程度の大規模授業も講堂を使用して距離を保った状況で対面授業を行っている。

(9) 九州地区

- ① 2019年7月に第22回研究発表会・総会を開催したが、天候不良のために討論は割愛せざるを得なかった。また、2019年5月に九州地区会報第30号を発行した。現在、共同研究テーマの立ち上げはないが、希望者の申し出があれば会員に呼び掛けができる体制は整えている。
- ② 2020年5月に九州地区会報第31号を発行し、2020年7月に琉球大学で行う予定であった地区会は中止することが決定した。役員は継続し、2021年度に琉球大学にて地区会を開催予定である。
- ③ 琉球大学では、遠隔授業を行ってきたが、7月以降は一部の授業について届け出と対策をした上で対面授業を認めている。大分大学では、前期は原則としてオンライン授業を行っているが、緊急事態宣言解除後に、教務委員会によって認められた一部授業で対面授業が認められている。なお、対面授業が認められた授業は3年生以上を対象とした実験実習等を含む少人数授業である。その後、模擬授業を含む授業なども追加で対面授業が認められた。課外活動は認められていない。

2. 理事会報告

(1) 事業担当

- ・理事会での協議により、12月に開催予定であった例会を大会として位置付けること、オンラインで開催することが決定した。期日は2020年12月11日(金)~13日(日)までの3日間の開催とする。
- ・研究発表の方法としては、口頭発表については音声付パワーポイントで動画を作成し15分以内で発表をする、質疑はチャットで行う(オンデマンド配信)。ポスター発表は音声なしの資料で行い、チャットで質疑応答を行う(オンデマンド配信)。課題研究の最終報告会はWeb会議システムを用いて行う予定である(オンライン)。参加費は例年の大会と同様とする。

(2) 渉外・広報担当

- ・地区会からの連絡は「地区会便り」として積極的に掲載したいと考えているため、活用して頂きたい。
- ・会員個人からの申し出についても「家庭科教育関連企画のお知らせ」を新たに設け、条件を満たせば掲載することができるため活用して頂きたい。メルマガへの掲載希望がある場合は毎月15日までに連絡を頂きたい。
- ・学会HPの地区会の活動に関して、最新の情報への更新をお願いしたい。

(3) 研究推進(望月・貴志・矢野)

- ・課題研究の第4次最終発表を研究発表に準じて実施する。質問を受け付けて、12月13日(日)に指定討論を行う予定である。指定討論者について要望などあれば7月20日(月)頃までに連絡を頂きたい。
- ・第5次課題研究を募集中のため、地区会員にも声を掛けて頂き、応募をお願いしたい。
- ・2021年3月のセミナーについては、オンラインで開催予定である。

(4) その他

- ・各地区からの報告資料については8月号の学会誌に総会資料として掲載予定である。修正などあれば、7月10日(金)までに地区会MLに送って頂きたい。(庶務)
- ・生活やものづくりの学びネットワークでは9月27日(日)にオンラインで企画を開催予定である。テーマは「新しい生活様式を意識した授業づくり」であり、新型コロナウイルスの影響で苦勞している点、工夫点などの情報交換の場としたいと考えているので、ぜひご参加頂きたい。(会長)

3. その他

- ・7月末までに地区交付金を各地区会に振込み予定である。(事務局)
- ・総会資料に掲載する地区会の活動報告については、既に新型コロナウイルスの影響により大会を中止することが決定している場合には、その旨修正を加えることとなった。

III その他

- ・第2回地区代表者会議は、大会終了後の2020年12月13日(日)15:30~開催予定である。オンライン大会の感想・意見なども聞きたいと考えている。

第40回 研究発表&講演会

【期日】2021年8月28日(土) (受付12:30~)

■研究発表 13:40~14:40

■講演会 15:00~16:30

塩のふしぎ入門

~動画、実験など五感を通じて塩を知ろう~

公益財団法人 塩事業センター

企画部 専任調査役

講師 谷井 潤郎 氏

「調理における塩の役割」、「食品としての塩の製造」、「塩選びのポイント」など生活に欠かせない塩について、動画や実験を交えながらお話しさせていただきます。

様々な塩の実物も見せていただけます。

【会場】山口大学教育学部 11番教室 (C棟1階)

新型コロナウイルス感染症流行状況と社会情勢に基づいて最終決定します。現時点では感染対策を十分に講じて基本的には対面にて開催する予定です。一部あるいは全てでウェブ配信またはウェブによる対応を行わせて頂く可能性があります。7月末にお送りするプログラムあるいは日本家庭科教育学会HPの地区会のページで最終的な開催形式をお知らせいたします。

【参加費】無 料

【申込・問合せ先】事前申込み (当日参加も可能です)

① E-mail : yae_mori@yamaguchi-u.ac.jp 件名 [中国地区会申込み]

② TEL : 083-933-5407 (森永八江)

2021年3月3日

日本家庭科教育学会中国地区会会員 各位

学会事務局

第40回研究発表会並びに総会のご案内

会報に記載されていますように、8月28日(土)山口大学教育学部におきまして標記の会を開催いたします。

つきましては、研究発表を希望される方は、研究発表申込書(切り取り線以下)に必要事項をご記入の上、5月31日までに、メールまたは郵送で下記宛にご送付ください。

ただし、新型コロナウイルス感染症流行状況によってはウェブでの開催となることをご承知おき下さい。

送付先

〒753-8513

山口市吉田1677-1

山口大学教育学部 森永八江

(tel 083-933-5407 ; E-mail yae_mori@yamaguchi-u.ac.jp)

***** 切り取り線 *****

| | |
|----------------------------|--|
| 発表者・所属 (演者には○印) | |
| 発表題目 | |
| パワーポイント 使用の有無 (○で囲む) | 使用する ・ 使用しない Windows7で作成されたパワーポイントは対応しません |
| 発表者の連絡先 | 電話番号 メールアドレス |

事務局だより

<新入会員> (敬称略)

(広島) 西澤 隼 藤田和也 栗井麻由 池田並穂

<自動退会該当予定会員> (敬称略)

(島根) 青木淳子 立石祥美 中野吟子 原田真弓 森岡千登栄 湯村紗都子

(広島) 中岡和美 平井美幸 増田恭子

(鳥取) 北垣球 (山口) 古庄 又

以上の方は、8月の総会までに連絡なき場合は、自動退会とさせていただきます。

1. 会報執筆について

| | 〈学校現場から〉 | 〈研究室だより〉 |
|-------------|----------|----------|
| 41号 (令和3年度) | 島根 | 岡山 |
| 42号 (令和4年度) | 岡山 | 広島 |
| 43号 (令和5年度) | 広島 | 山口 |
| 44号 (令和6年度) | 山口 | 鳥取 |
| 45号 (令和7年度) | 鳥取 | 島根 |

2. 地区会費の納入のお願い

地区会費の納入状況についてのお知らせを同封しています。2021年度の地区会費とともに未納分の地区会費を下記の口座に納入して下さいますよう、お願いいたします。

未納期間が4年を超えますと、自動退会となりますので、ご注意ください。

お知らせの入っていない方は、2020年度まで地区会費が納入済です。

【地区会費】

| | | | |
|------------|---------------|------|----------------|
| 銀行口座 | ゆうちょ銀行 | 記号 | 15500 |
| 番号 | 30819531 | 加入者名 | 日本家庭科教育学会中国地区会 |
| 年会費 | 1,000円 | 入金金 | 不要 |
| 他金融機関からですと | | | |
| 店名 | 五五八 (読み ゴゴハチ) | 店番 | 558 |
| 預金項目 | 普通預金 | 口座番号 | 3081953 |

【入会申し込み方法】

下記事務局までお問い合わせ下さい。

3. 事務局連絡先

住所・勤務先の変更などがございましたら、事務局までお知らせ下さい。

〒739-8524 東広島市鏡山 1-1-1 広島大学大学院教育学研究科人間生活教育学講座
人間生活教育方法学研究室 梶山 曜子

TEL : (082) 424-6851 E-mail : d191477@hiroshima-u.ac.jp

4. 送付先住所不明会員 (敬称略)

董婉綺 古庄 又 増田恭子 藤原沙季 坂本真友香 考藤悦子

以上の方の連絡先を御存知の会員がおられましたら事務局までお知らせ下さい。

《編集後記》

会報第41号をお届けいたします。会報の発行に当たりまして、年度末のお忙しい中、ご執筆くださいました先生方に深く感謝申し上げます。会員の皆様には会費納入のご協力をお願いします。また、氏名や連絡先の変更が生じた場合は、事務局までお知らせくださいますようお願いいたします。 (梶山 曜子)